

斑点米カメムシ類の発生状況と防除対策について

平成28年 7月14日



秋 田 県

1 秋田県における斑点米カメムシ類

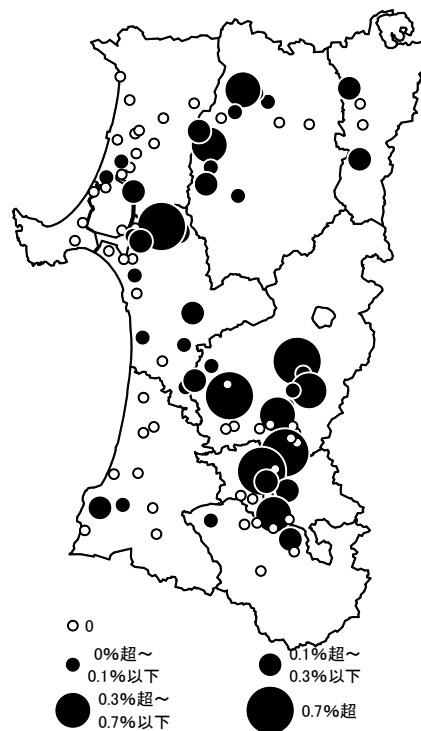
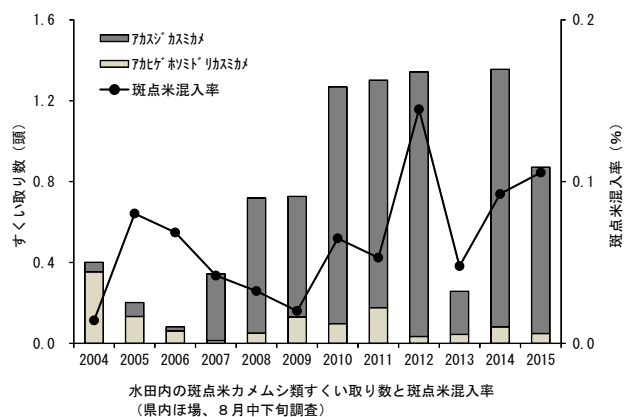
秋田県内の主要な斑点米カメムシ類はアカスジカスミカメですが、アカヒゲホソミドリカスミカメが混発する場合があります。

2 アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメの生態

- 1) イネ科雑草（スズメノカタビラ、スズメノテッポウ、イタリアンライグラス、メヒシバ、ヒエ等）を好みます。
- 2) 飛翔能力が高く、被害は水田全面に及びます。
- 3) 割れ籾を好んで加害します。
- 4) 稲の出穂期頃から水田に侵入して加害しますが、水田内にイネ科雑草等がある場合は雑草の出穂と同時に侵入します。

アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ
	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体長4.6～6mm ・ 年3～4回発生 ・ 7月下旬以降に発生した成虫が加害する。 ・ 水田内に雑草があれば幼虫も発生し、加害する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体長5～6mm ・ 年4回発生 ・ 8月下旬～9月に水田内で増殖した成虫や幼虫が加害する。

3 昨年までの発生状況



【斑点米の類型】



アカスジ・アカヒゲ
オオトゲシラホシカメムシなど

秋田県における斑点米の大部分は、本田に侵入したアカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメが登熟後半に玄米を加害してできる側部斑点米です。

4 現在の発生状況と今後の発生予想

- 1) 6月6半旬までの予察灯におけるアカスジカスミカメの越冬世代成虫の誘殺数は多く、発生時期が早いことから今後の発生量は多くなると予想されます。
- 2) 7月1～2半旬に行った畦畔での斑点米カメムシ類すくい取り調査では、アカスジカスミカメの発生量は平年並でしたが、約半数のほ場では畦畔に出穂したイネ科雑草が繁茂しており、すくい取り数は多い傾向でした。また、水田内雑草の発生も半数以上で確認されており、除草が不十分なほ場では水田内へのアカスジカスミカメの侵入が多くなり、斑点米被害の多発が懸念されます。

5 防除対策

1) 除草の徹底により雑草地における斑点米カメムシ類の密度を低下させる

- ①法面、休耕田等の雑草地の除草は、稲の出穂10日前（平年では7月25日頃）までにできるだけ地域一斉に実施します。その後草刈りを行う場合は、稲の収穫2週間前以降に行います。
- ②農道や畦畔の草刈りは、稲の出穂10日前（平年では7月25日頃）までに数回実施します。水田畦畔刈り込み代用剤を散布すれば、40～50日の抑草効果が期待できます。
- ③出穂期10日後頃に行う茎葉散布剤の散布直後から7日後までに、農道や畦畔の草刈りをし、斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科雑草の除去に努めます。その後、草刈りをする場合は、稲の収穫2週間前以降に行います。
- ④水田内にイネ科雑草のノビエやカヤツリグサ科のホタルイ類が多発すると、アカスジカスミカメの水田への侵入を助長するため、水田内の雑草対策を徹底します。

2) 薬剤散布により本田内の斑点米カメムシ類の密度を低下させる

- ①次のようなほ場や発生予察に基づいて多発が予想される場合は、出穂期10日後頃の防除に加え、同24日後頃の2回、茎葉散布剤（液剤、粉剤）による防除を必ず実施します。
 - ・出穂したノビエ、ホタルイ類が発生しているほ場。
 - ・斑点米カメムシ類の発生源となるイネ科植物が主体の牧草地や休耕田などに隣接したほ場。
- ②農薬飛散による周辺農作物への影響が懸念される場合は、水面施用剤（粒剤）を用います。